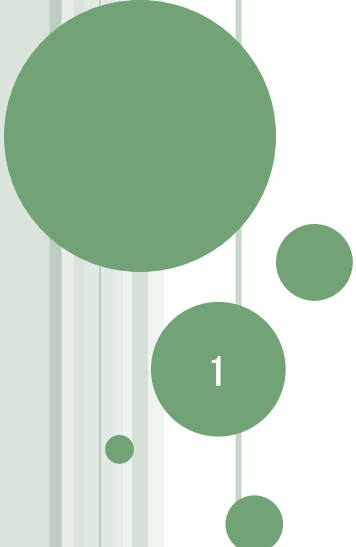




学校再編計画策定に向けての 検討経過について

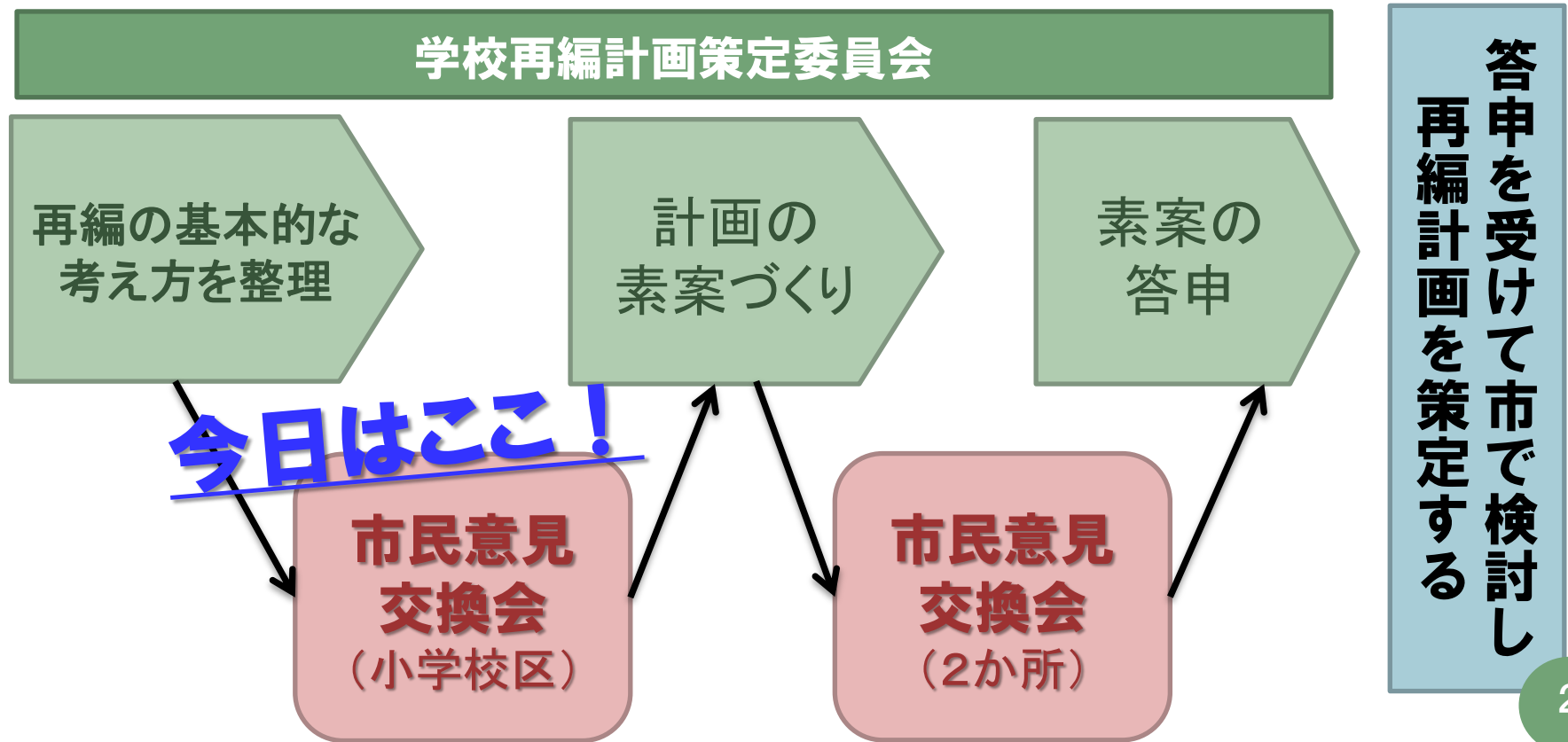
1

令和2年10月
牧之原市学校再編計画策定委員会

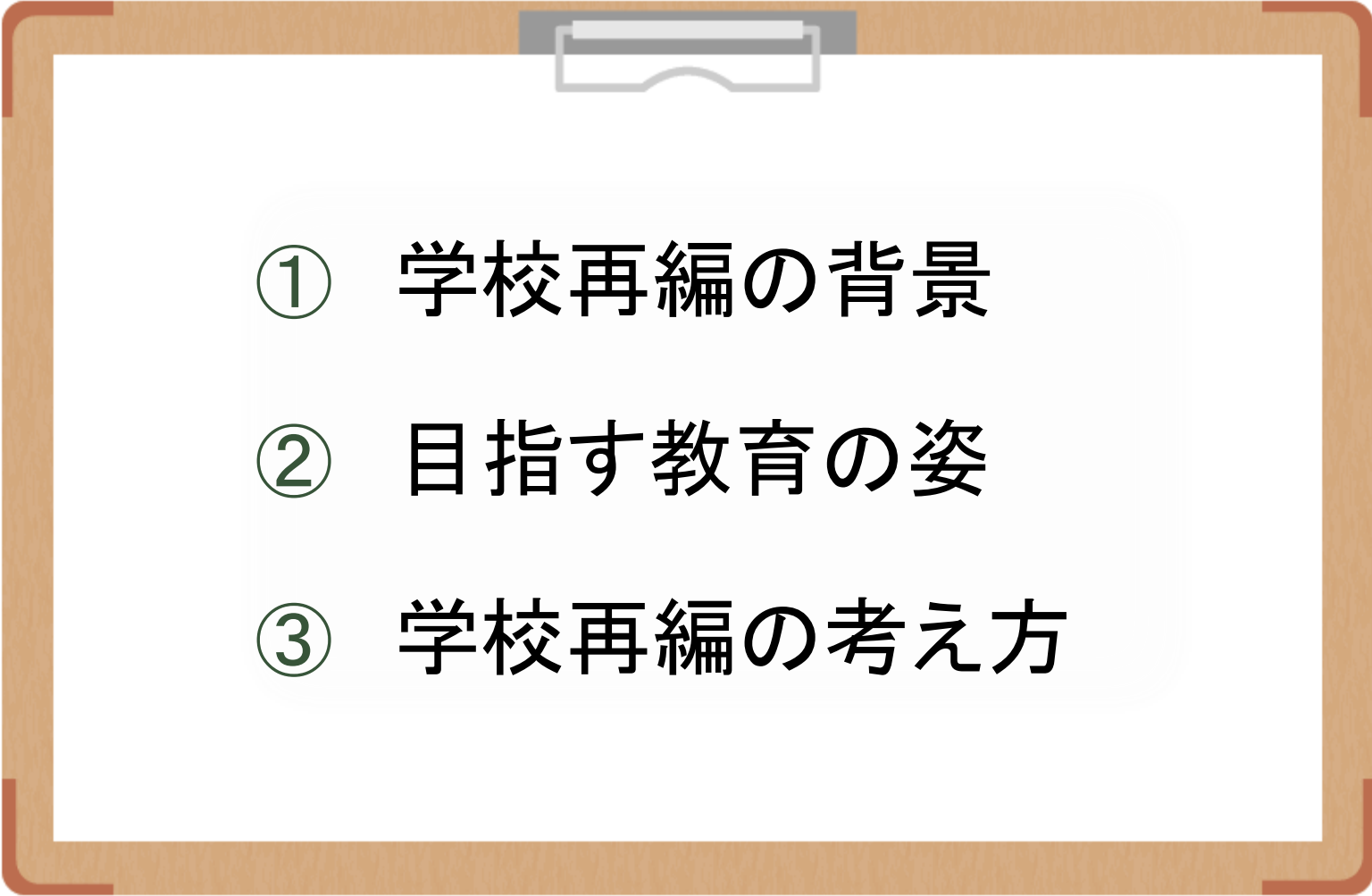
意見交換会の目的と位置付け

【目 的】

- 現段階の策定委員会としての学校再編についての考え方をみなさんに伝え、ご意見をいただく。
- いただいたご意見を踏まえて、計画の素案づくりをする。



本日説明する内容

- 
- ① 学校再編の背景
 - ② 目指す教育の姿
 - ③ 学校再編の考え方

学校再編計画とは...

- 学校を再編するにあたっての
学校像、学校区、学校の場所、
開校までのスケジュール等について定めるものです。

なぜ学校再編計画の検討をしているのか

目指す教育と教育環境を 実現するため

現状 1

子どもが少なくなっている

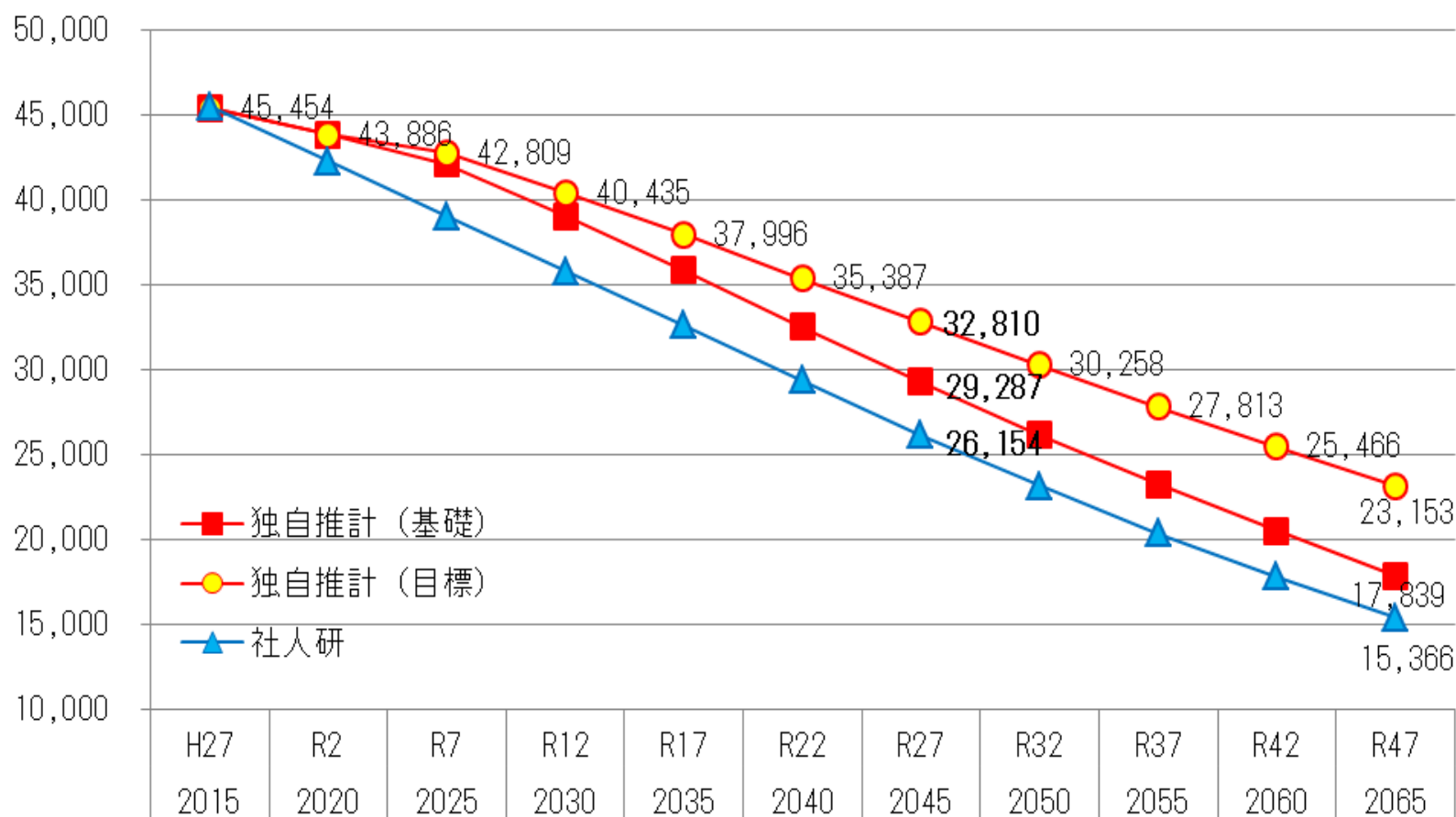
現状 2

施設の老朽化と立地

牧之原市の人口推計

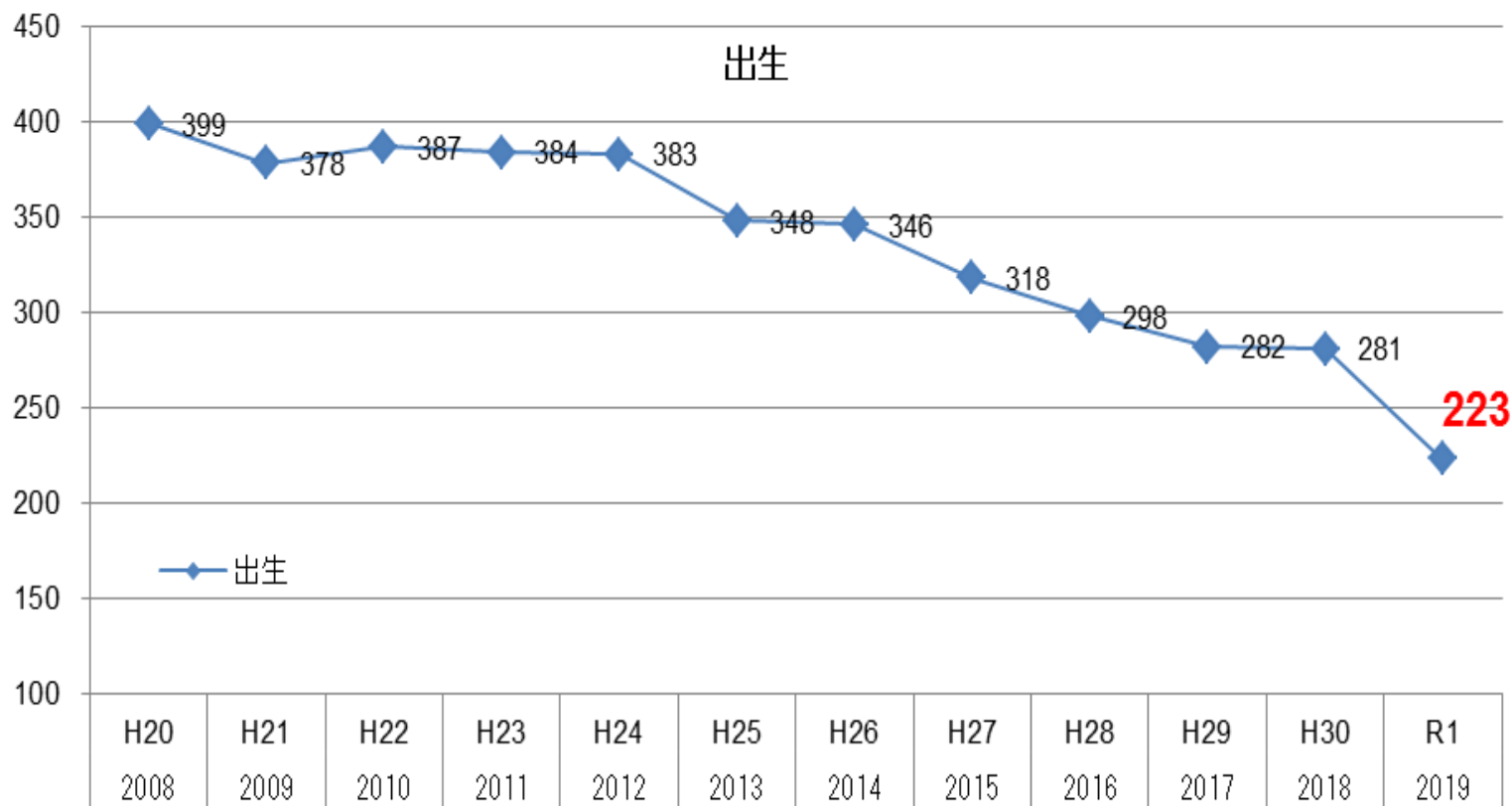
現状1：少子化

令和2年8月に示された市の人口ビジョン案



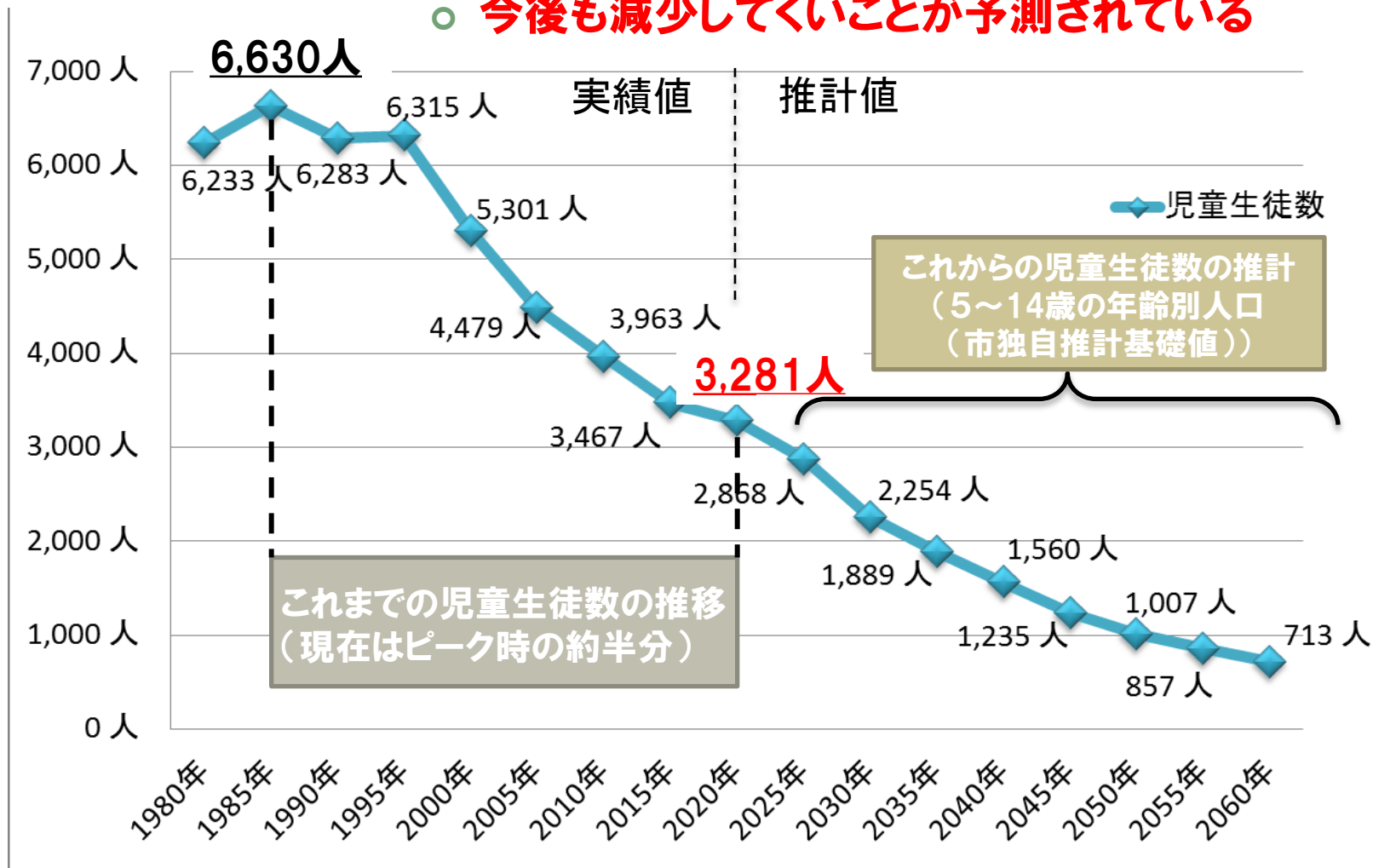
牧之原市出生数の推移

- 10年程度で出生数が半分近くに減ってきてしまっている
⇒ これから小学校に入学してくる子どもが少なくなる



牧之原市の児童生徒数の推移と推計

- 市全体の児童生徒数は、現在はピーク時の約半分
- 今後も減少していくことが予測されている



※牧之原市が令和2年8月に示した人口ビジョン案の市独自推計(基礎値)に基づき算出。政策反映なしパターン。
5歳ごとの人口統計となるため、未就学である5歳児分が入っている(1学年分多い)。

小学校ごとの児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移

1980～2020年度（現在）までの推移

■ 2026年までの児童数の推計

2026年度までの1年ごとの児童数の推計

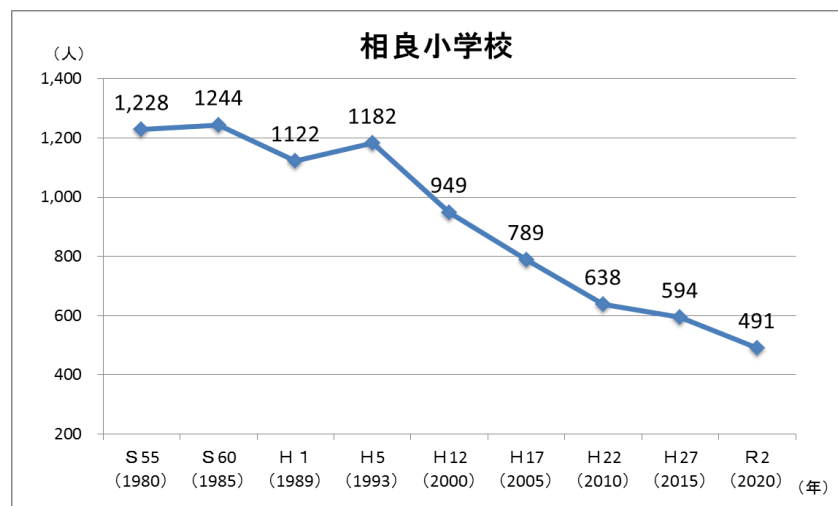
2021年度以降入学する児童数は令和2年4月1日現在の住基

基本台帳登録者数

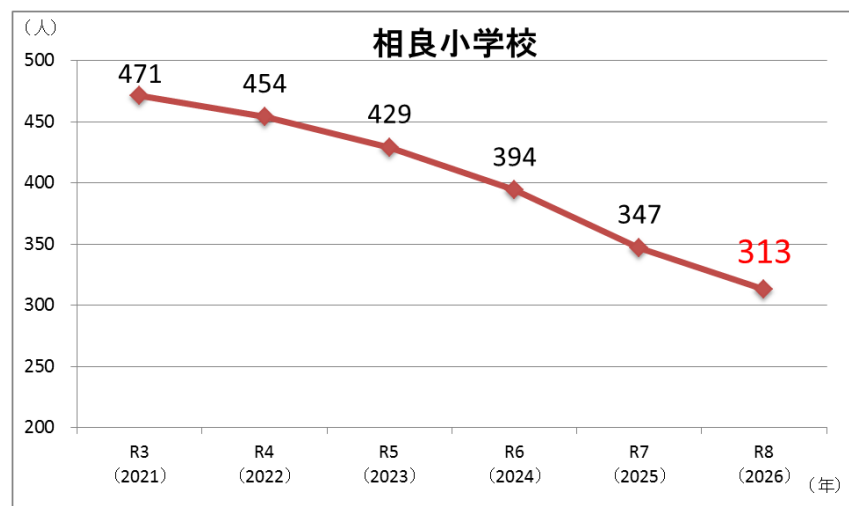
全員が地区の学校に進学した場合

相良小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計

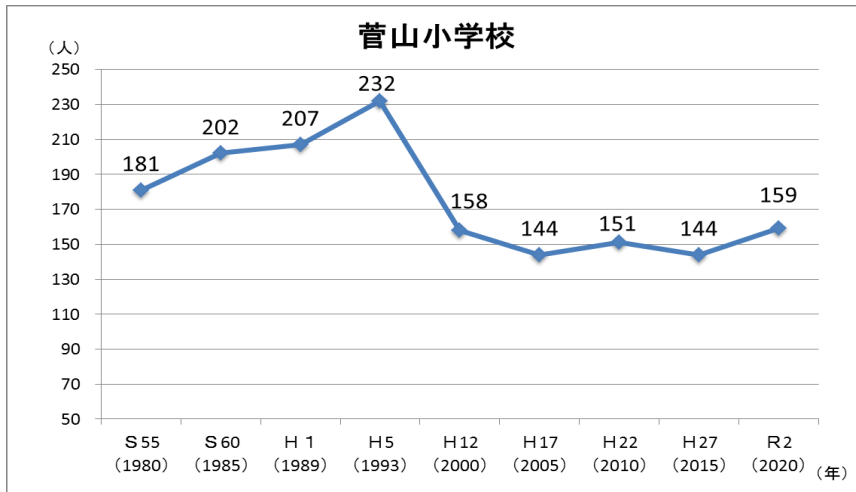


2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

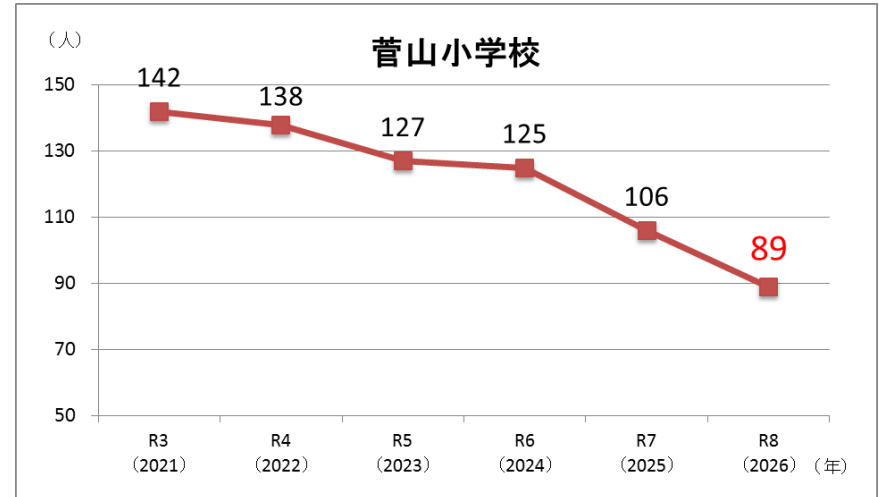
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	32	44	40	60	67	70	313
学級数	1	2	2	2	2	2	11

菅山小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計

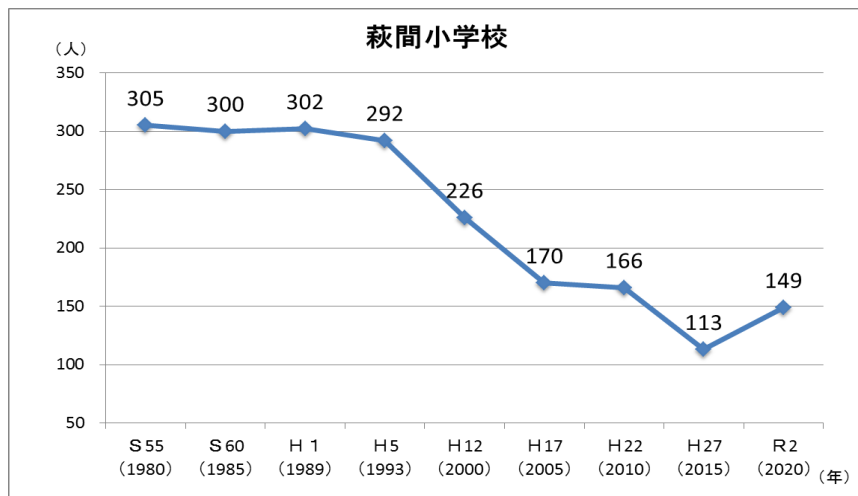


2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

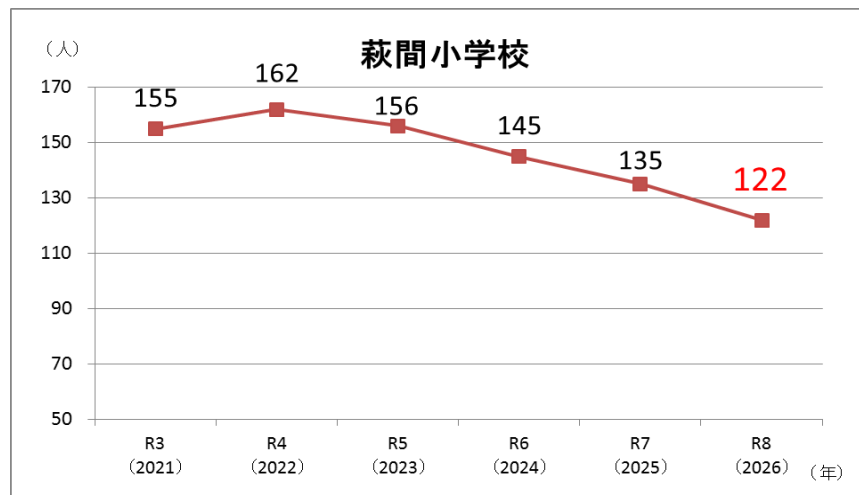
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	10	12	17	18	19	13	89
学級数	1	1	1	1	1	1	6

萩間小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計

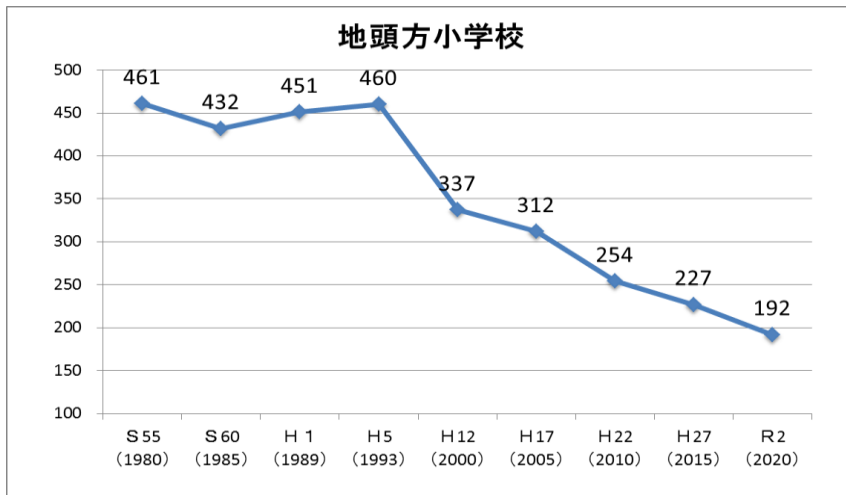


2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

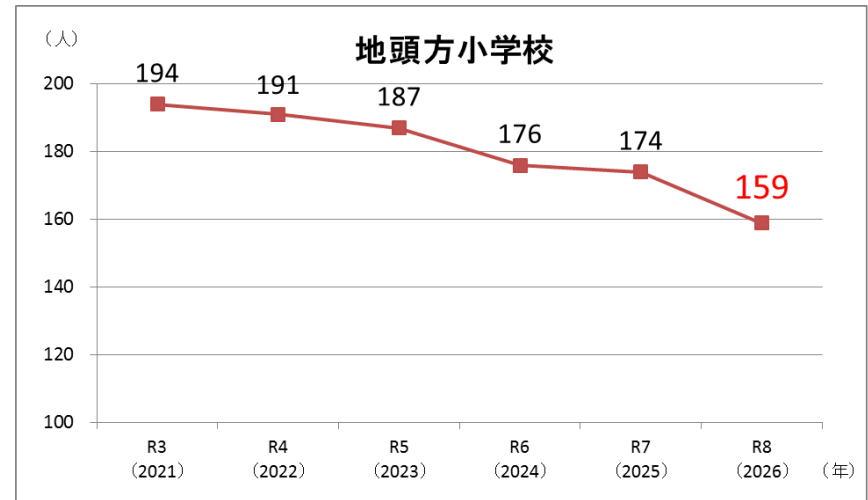
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	17	16	19	19	27	24	122
学級数	1	1	1	1	1	1	6

地頭方小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計

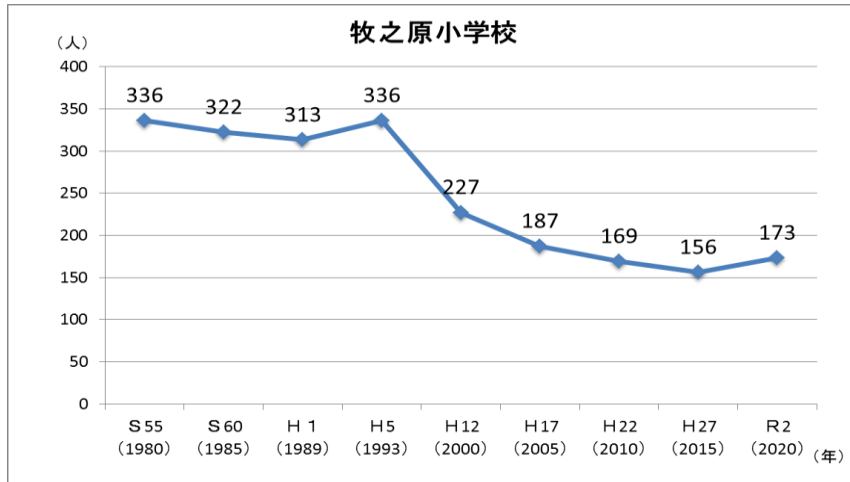


2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

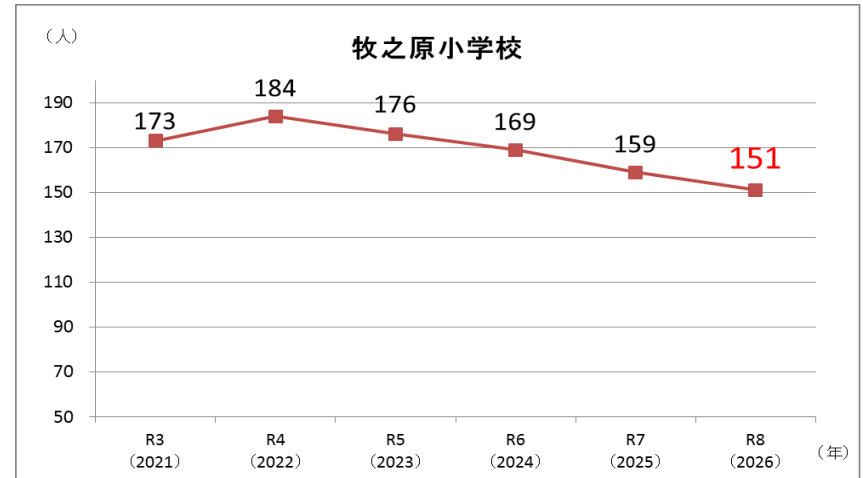
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	15	31	24	24	29	36	159
学級数	1	1	1	1	1	2	7

牧之原小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計



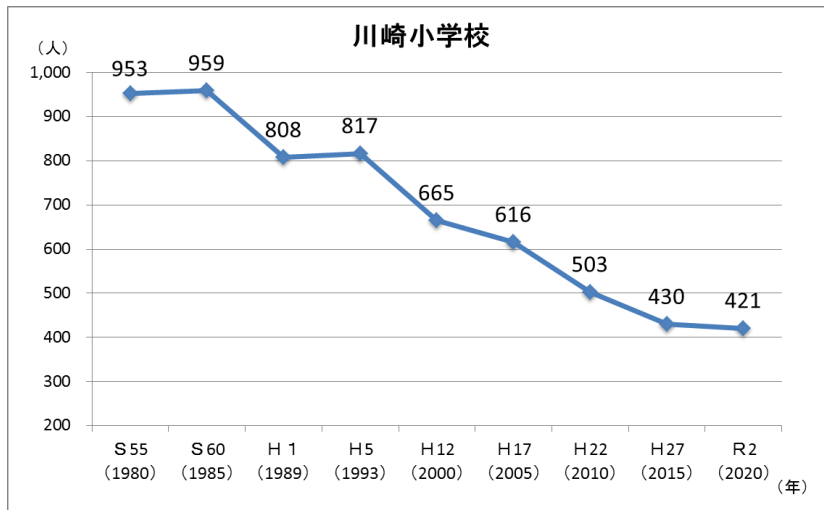
※現在の菊川市の在籍率を掛けている

2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

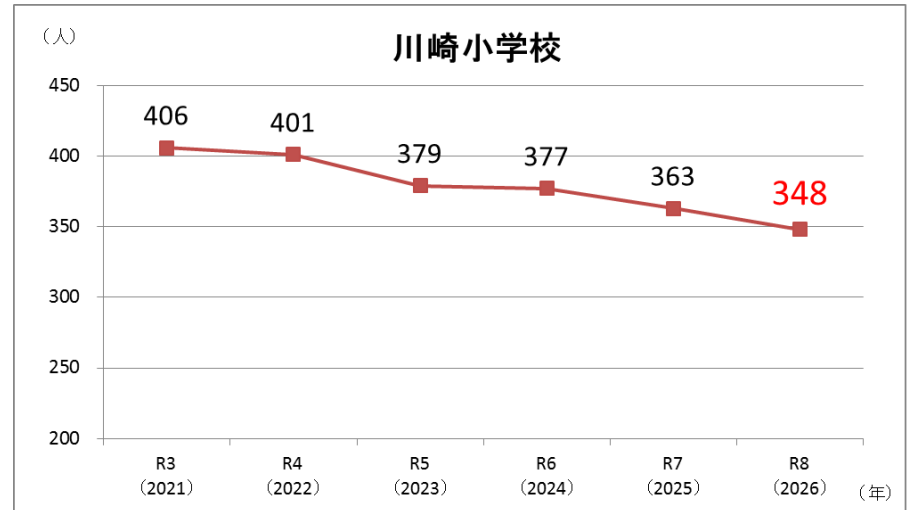
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	19	20	31	25	28	28	151
学級数	1	1	1	1	1	1	6

川崎小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計

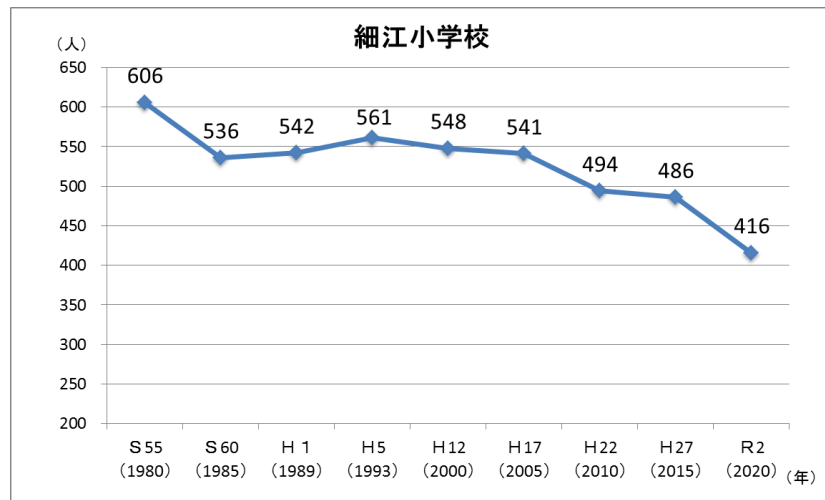


2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

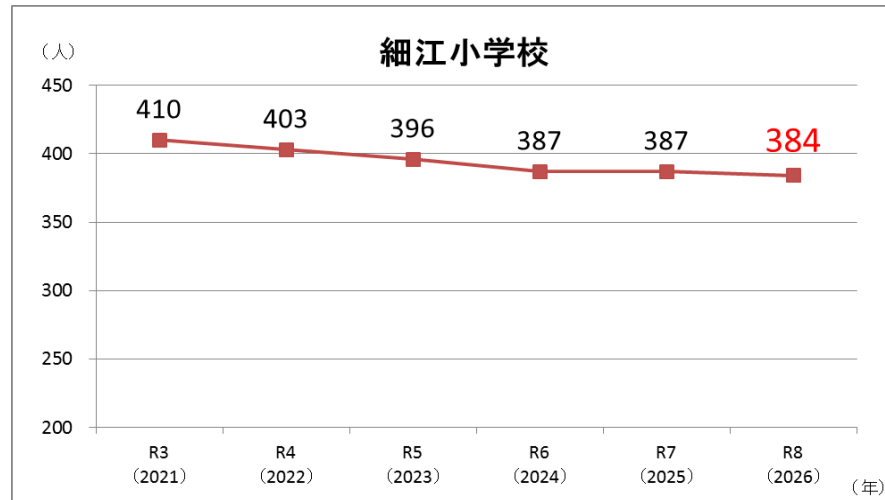
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	40	62	58	54	71	63	348
学級数	2	2	2	2	3	2	13

細江小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計

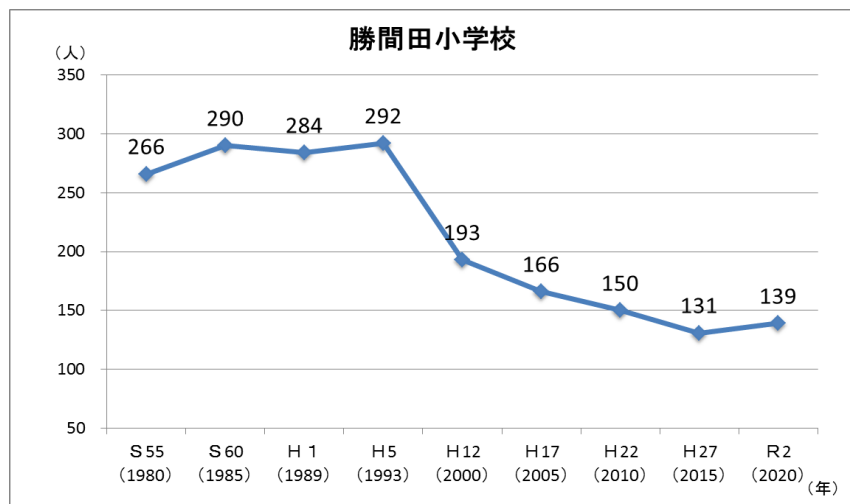


2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

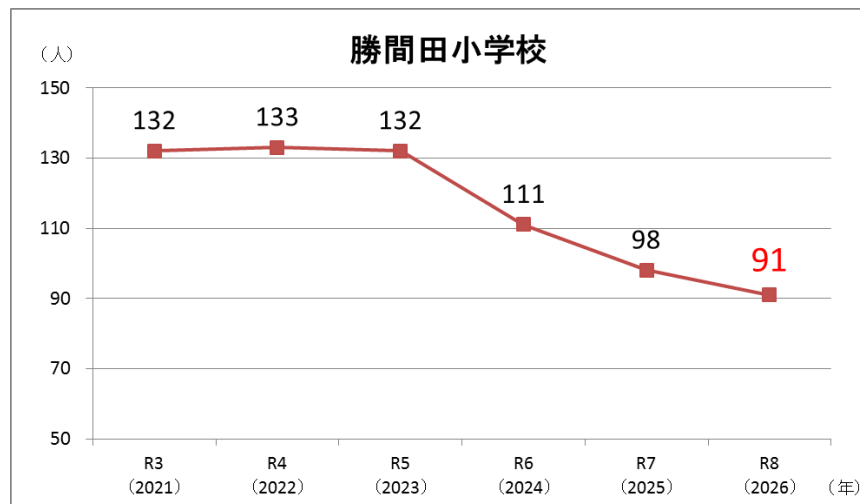
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	66	63	66	60	60	69	384
学級数	2	2	2	2	2	2	12

勝間田小学校児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計

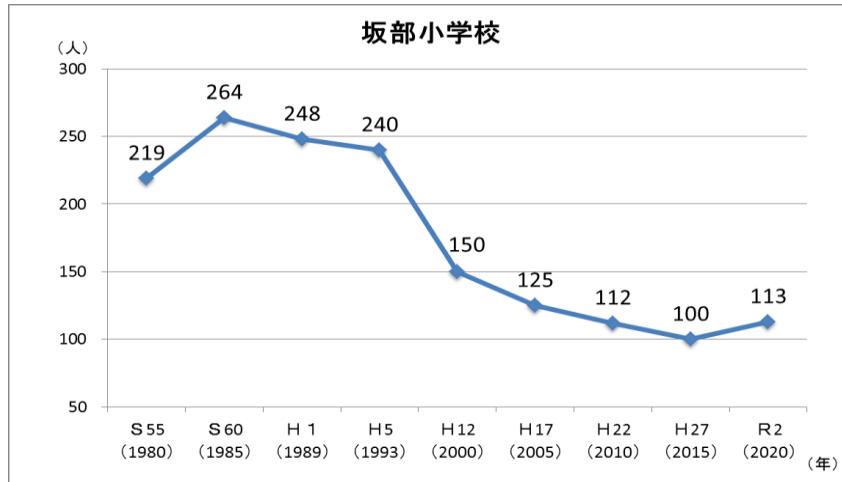


2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

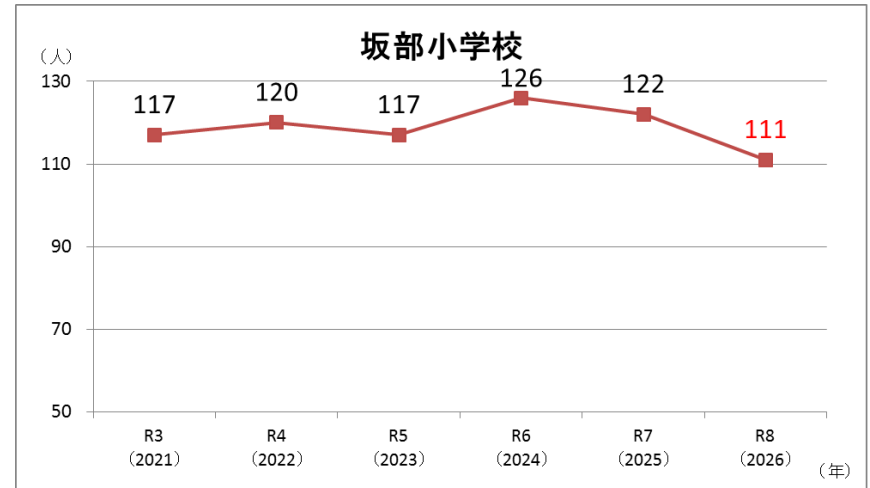
児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	9	12	12	19	23	16	91
学級数	1	1	1	1	1	1	6

坂部小学校の児童数の推移と推計

■ 40年間の児童の推移



■ 2026年までの児童数の推計



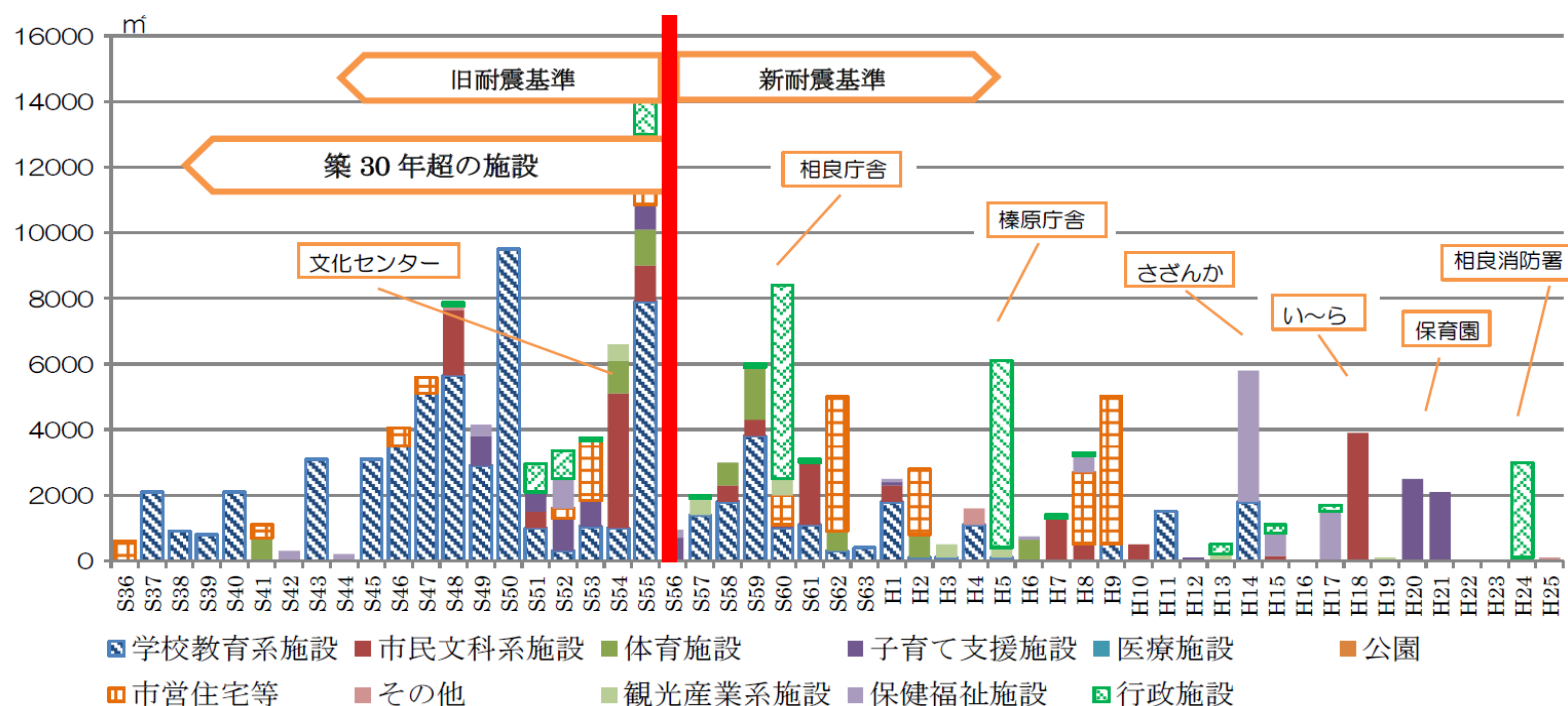
2026年時点の児童数と学年学級数(推計)

児童/学級数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
児童数	10	16	20	23	21	21	111
学級数	1	1	1	1	1	1	6

学校教育施設の状況

現状2：施設

- 市が所有する公共施設のうちの約40%は学校教育施設
- 公共施設のうち旧耐震基準である昭和56年以前に建てられたもののほとんどは学校教育施設(耐震補強工事済)



古い学校施設が多い

校舎と築年数

学校名	名称	建築年	築年数
相良小学校	管理棟(A棟)	昭和59年2月	36
	教室棟(B棟)	昭和48年3月	47
	教室棟(C棟)	昭和57年6月	38
菅山小学校	(管理教室棟)	昭和56年3月	39
	(教室棟)	平成5年3月	27
萩間小学校	北校舎	昭和47年3月	48
	南校舎	昭和40年11月	55
地頭方小学校	管理棟	昭和48年12月	47
	1棟	平成2年2月	30
	2棟	昭和40年3月	55
牧之原小学校	(管理教室棟)	昭和45年3月	50
川崎小学校	A棟	昭和43年3月	52
	B棟	昭和43年2月	52
	C棟	昭和55年6月	40
細江小学校	北校舎	昭和45年3月	50
	南校舎	昭和57年2月	38
勝間田小学校	(管理教室棟)	昭和39年3月	56
坂部小学校	管理教室棟	昭和37年8月	58
相良中学校	南校舎	昭和50年8月	45
	中校舎	昭和50年8月	45
	北校舎	昭和50年9月	45
榛原中学校	管理棟特別教室棟	昭和48年7月	47
	普通教室棟	昭和47年3月	48
牧之原中学校	(管理教室棟)	昭和53年1月	42

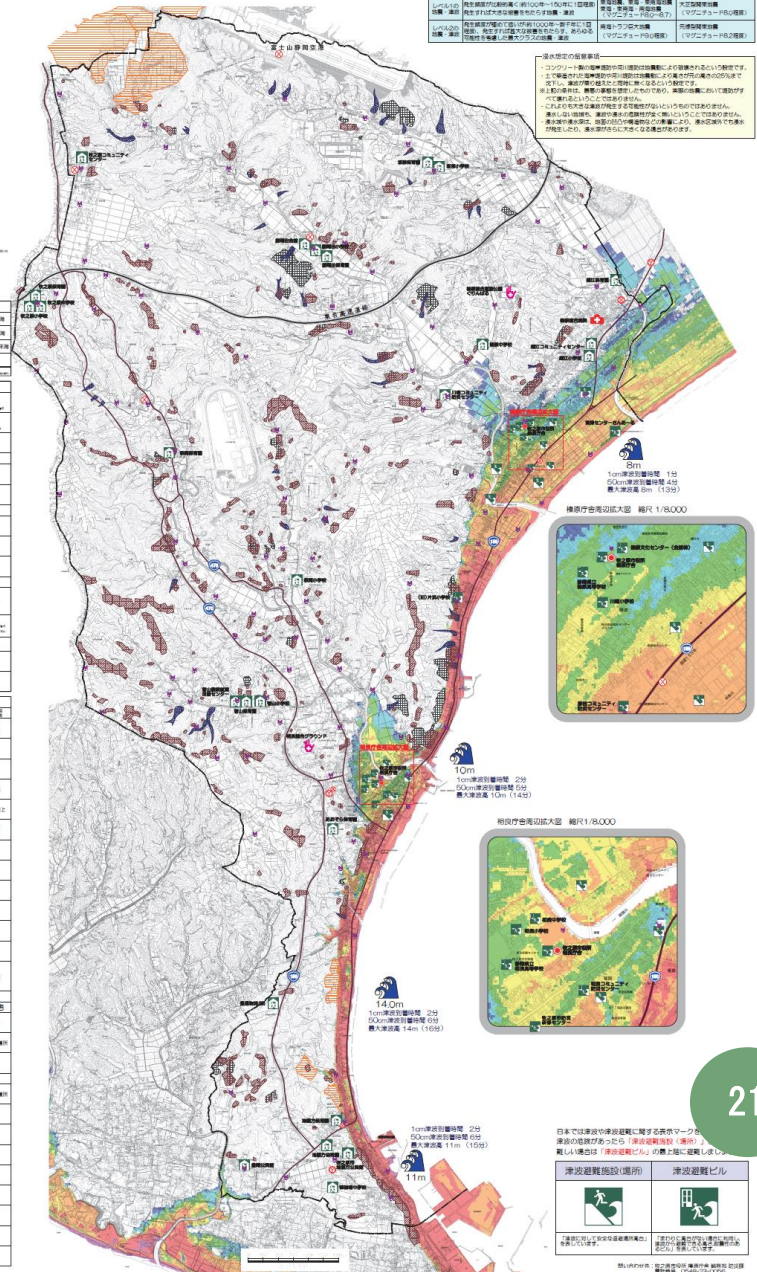
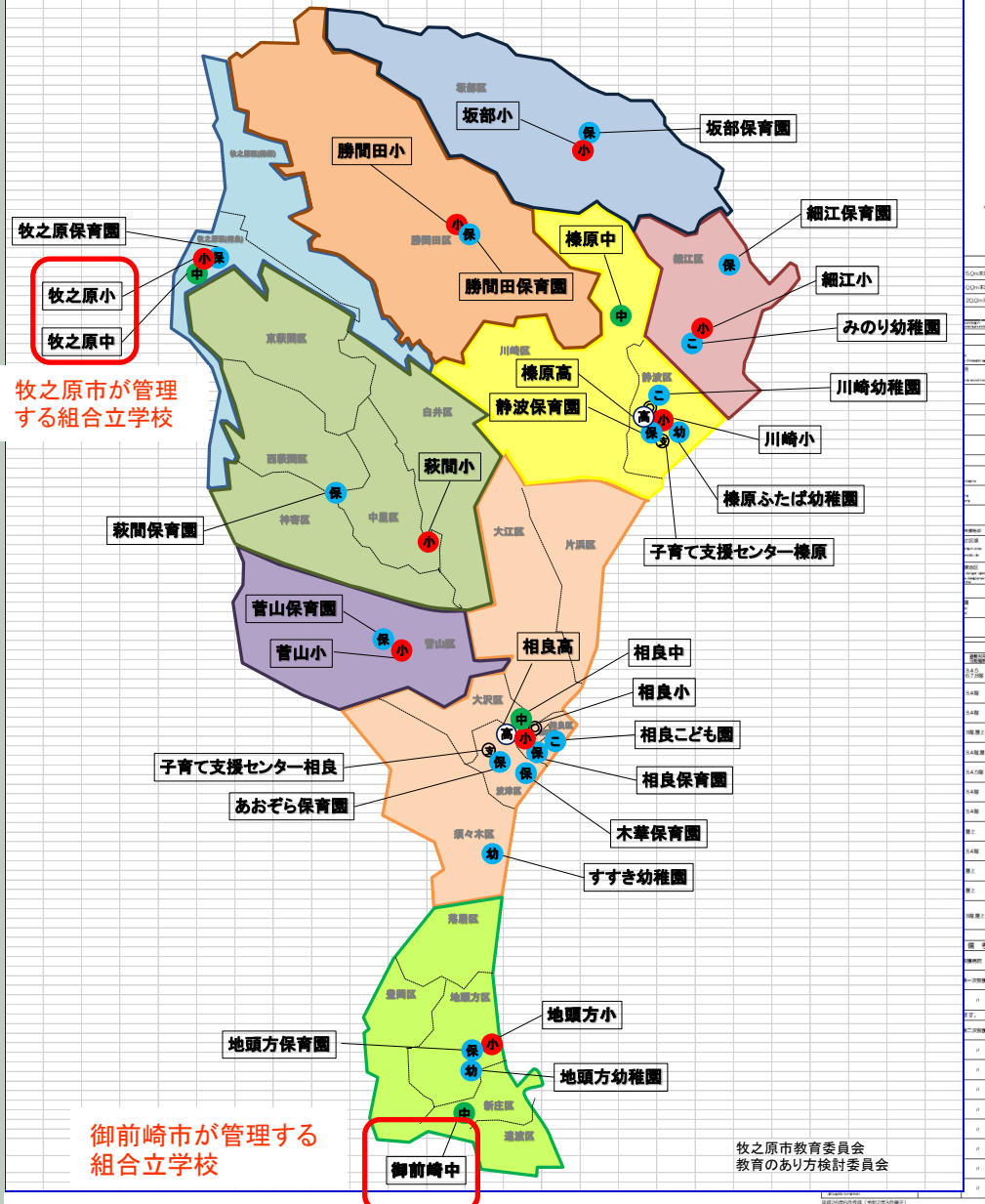
※増改築した校舎は当初の建築年を表示

**ほとんどの学校で40年以上経っている校舎があり
更新時期を迎えている**

※老朽化により、雨漏り、沿岸部の学校でコンクリート剥落、プールの漏水等あり

学校施設の立地

津波ハザードマップ



目指す教育環境とは

児童生徒数の減少や施設が更新時期を迎えていることだけでなく、子どもたちが育ち、学ぶ場所としてどのような環境が必要かということが大事



牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針

(平成31年3月策定 平成29～平成30年度検討)

「これからの世の中で**求められる教育**」はどのようなもので、それを行うためには「どのような**教育環境**を整える必要があるか」について検討し、明らかにしたもの。

■ 第2次総合計画重点戦略〈H27年度 8年間〉

活力を高め、若者が魅力を感じる住環境や雇用・教育環境などを実現する。

■ 教育大綱〈H27年度 4年間〉

「児童数の減少や学校施設の老朽化に伴い、子どもたちが学びやすい環境を整えるため小学校の規模と配置の適正化を図ります。」

■ 公共施設マネジメント基本計画〈H28年度 10年間〉

「小中連携教育を進め、魅力ある教育環境を実現するため、小中学校再編計画を策定します。」

次代を切り拓く力

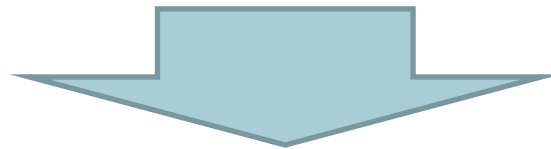
- 社会がどのように変わっても主体的にたくましく生き抜くことができる人間力
- 社会の変化に適応するだけでなく、新たな価値を創造し、よりよい将来を創り出すことができる

- 
- 年代や価値観、能力等が違うさまざまな多くの人と出会う・触れ合う
 - 授業で学んだことを生活や社会と結びつけて考えたり、生かしたり、チャレンジしたりする

目指す学校施設

次代を切り拓く力をつけるために

- キャリア教育を軸とした小中一貫教育と社会全体で子どもを育てる仕組みの実現
 - 子どもたちの学びは教科だけではない。自分の考えを伝えられる、主体的に行動ができるなど、地域や社会で生きていくための基礎をつくるのがキャリア教育です



施設のには、

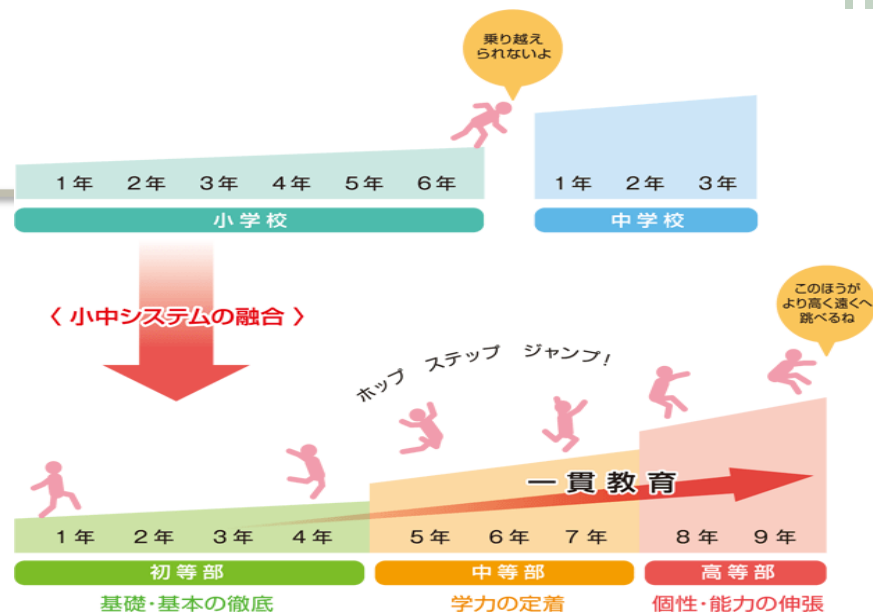
**安心・安全で学びやすく、通いたい・通わせたいと
思ってもらえる魅力的な小中一貫校を目指す**

①安心・安全

②魅力的な施設

③多様な人と関わる・つながりある学びと育ちをしやすくする

小中一貫教育のよさ

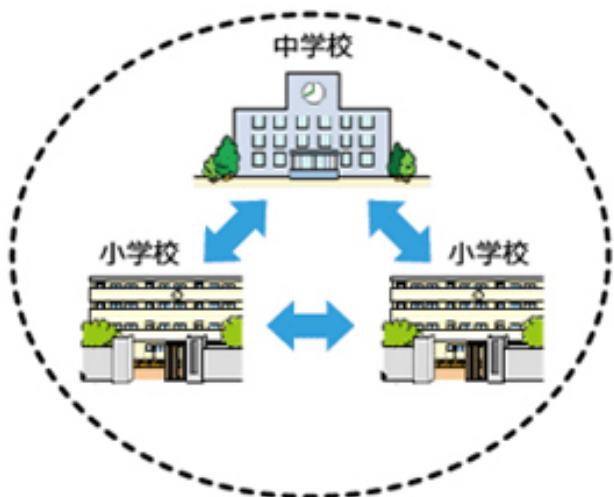


- 義務教育期間の9年間を通した教育環境を整備することができる

- 9年間を通じた学校目標の下で学ぶことができる
→生活面でも学習面でも、つながりがある一貫した指導ができる
例：小学校からの教科担任制導入など、柔軟に対応できる
(中1ギャップの解消)
- 異年齢など多様な集団活動を経験することができる
→複数の教職員・地域住民が関わる機会を確保できる
- 「地域」に根付いた活動を経験することができる
→「中学校区」を単位として系統的な活動を支援することができる

小中一貫校のかたち

施設分離型小中一貫校



施設一体型小中一貫校



こちら！

牧之原市では、現在小中一貫教育を進めている。
当面の間は、施設分離型で進めるが、施設一体型の方がよりやりやすい、成果が大きいいため、再編する場合は一体型で進めたい。

近年建てられている学校事例



【参考】

- 岩手県大槌町立大槌学園
- 福島県郡山市立西田学園
- 愛知県飛島村立飛島学園
- 愛知県瀬戸市立にじの丘学園

教室の移り変わり



横に広く、可動式扉で廊下との境を
無くすことができる
廊下も学年集会ができる広さがある





その他の場所



小中一貫校についての考え方

牧之原市望ましい教育環境のあり方に関する方針より

規 模

- 1学年3学級以上。
- 建築後20年間は単学級とならない。

安心・安全

- ▶ 津波浸水想定区域外
- ▶ 防災機能の充実

機 能

- ▶ 時代に対応した設備。
- ▶ 図書館、プール、地域の人が活動できるスペース等市民と共有できる機能（複合化・共有化）

2030年開校を目指す

学校再編計画策定委員会の検討経過

- 牧之原市学校再編計画策定委員会 設置
- 諮問：学校再編計画の素案の作成
- 委員：10人（専門家、保護者、学校関係者、自治会関係者、公募）
- 検討期間：令和元年9月～
- 検討方法：会議6回（勉強会含）、視察

再編して目指す学校像

目指す学校 コンセプト

「みんなの学校」

- みんなで育てる「共育」 みんなで子どもを育てる・関わるみんなが育つ
- みんなが行きたくなる、みんなが活動できる

キーワードは「つながり」

次代を切り拓く力 = 人間力 (主体性・社会性・気付き力・コミュニケーション力等) の育成

小中一貫教育

9年間のつながりある
学びと育ち

- ・ 小学校と中学校が同じ狙いを持ち、お互いの授業を意識することでよりよい学びにする(一貫した指導)
- ・ 「できた・分かった」輝く子ども
- ・ 着実なステップアップ ゆるやかな段差によるバランスのよい育ち
- ・ 教科専門性への対応

多様な人に触れる

- ・ たくましさ・自己肯定感
- ・ 切磋琢磨できる環境
- ・ 一定の集団(クラス替えができる規模)の中で違う考えの人と触れ合い自分の生き方を見つける
- ・ 異学年、地域といった多様な年齢や立場の人と触れることでさまざまな考え方をを知る
- ・ インクルーシブ教育

コミュニティ・スクール

いろいろな体験をする

- ・ 授業の学びと実体験・実社会をつなぐ
- ・ 牧之原だからできるリアル体験を大切に
- ・ 地域・家庭・学校が一緒に子どもたちに地域愛を育む

キャリア教育

学校が楽しい！

時代が変わっても教育内容、ライフスタイルに柔軟に対応できる施設・設備

特別教室の位置

広い廊下

可動式仕切り

50年後も使える仕様

など

愛される施設

- ・ つくり手と使い手側が一体となった施設
- ・ 魅力ある環境

教育活動を支える施設の機能

ICT環境

ユニバーサルデザイン

木のぬくもり

地域と共有できる機能

共同職員室・たくさんのスタッフがいる広さ

メンテナンスのしやすさ

エコスクール

など

安心・安全

- 災害に強い(場所と建物)
- 適正な管理ができる規模と質(限られた人とお金・後世に不安を残さない)
- 通学も安心(通学路と通学手段)
- 見える学校(目が届く・たくさんの目で見る)
- 保健衛生環境が整っている(感染症対策がしやすい)

土台・
基礎と
なるもの

学校数の検討

- 望ましい教育環境のあり方に関する方針
- 目指す学校像



これらを踏まえて比較検討

- 12校を残す場合
- 市内に1校の場合
- 市内に2校の場合
- 小学校と中学校が学校組合としてある牧之原小・中学校がそのまま存続した場合

12校を残す案について①

- 12校のままだと、将来的に1クラスの人数が一桁、または複数学年で1クラスになってしまう可能性が高い。

⇒ 子どもたちが多様な人との関わり、さまざまなことにチャレンジできる機会をつくるにはある程度の人数が必要

- 小・中学校が一体となった施設をつくり、よりつながりやすく見えやすくすることで、教育効果を高めたい。

⇒ 小中一貫校を離れてつくるのではなく、同じ施設内に児童・生徒がいる環境にする

12校を残す案について②

- 最低限の機能がある施設をたくさんつくり、たくさん予算を使うより、集中して充実した機能がある施設にしたい。

⇒ 人や施設を集約して充実させる

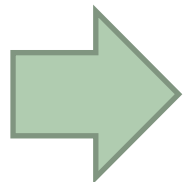
【他市の事例】

- ・ 1学年単学級の学校を建てる場合 12億円程度
- ・ 1学年2学級の学校を建てる場合 17億円程度

※校舎建設費のみ。設計、造成、体育館等の費用は入っていない。

- 津波浸水想定区域に建つ学校がある

⇒ 子どもたちの命を守る 安心・安全な場所にしたい。



12校では、目指す学校像の実現が困難

1校、2校にした場合の児童生徒数と学級数（推計）

- 児童生徒数は、市人口推計（基礎値）案の5～14歳の年齢人口を基に、2026年時点の学校の児童生徒数の割合により算出している
- 2校の場合は、便宜的に牧之原小・中学校と地頭方小学校を相良分に入れている。
- 牧之原小・中学校には現在学校に通っている菊川市の子どもの率を加算している。
- 学級数は、1学級35人とした場合で人数割りしている

年代		2030年		2040年		2050年	
校数		人数	学年 学級数	人数	学年 学級数	人数	学年 学級数
1校		2,286	7～8	1,582	5～6	1,022	3～4
2校	相良	1,108	4	767	3	496	2
	榛原	1,178	4	815	3	526	2

【国が示す学校の適正規模】

- 小・中学校：12～18学級（小学校は2～3学級、中学校は4～6学級）
- 義務教育学校（小中一貫校）：18～27学級（1学年2～3学級）

1 校案について

メリット

- 市としての一体感が醸成できる
- 人や施設を集約して充実できる
- 長期的に見ても単学級とならない

デメリット

- 1校の児童・生徒数が多くなりすぎる
- 大規模過ぎると目が行き届かない
- 通学距離が遠くなり、子どもの負担が大きく、スクールバスの台数も多く必要になる



1校では一番大事にしたい子どもの学びや育ちの充実を図ることが難しくなるのではないか

再編する学校数の考え方

○旧相良・旧榛原に1校ずつ 計2校とする

- 長期的に見ても単学級にならない人数が維持できる
- 教職員の目が行き届く規模
- 旧町単位となり、今の中学校区と同じ地域が多く地域性を大切にできる
- 市内1校にした場合に比べて、子どもたちが通学するのに負担が少ない距離で、スクールバス等の使用台数が少ない

- 牧之原小・中学校については、引き続き検討する。
- 地頭方地区の児童・生徒については、相良地域の学校に通うことを想定。

学校区の変更案

現在

牧之原市立

- ・榛原中学校
- ・川崎小学校
- ・細江小学校
- ・勝間田小学校
- ・坂部小学校

中1校、小4校

- ・相良中学校
- ・相良小学校
- ・菅山小学校
- ・萩間小学校

中1校、小3校

- ・地頭方小学校

小1校

牧之原市菊川市 学校組合立

- ・牧之原中学校
- ・牧之原小学校

中1校、小1校

牧之原市立

- ・榛原中学校
- ・川崎小学校
- ・細江小学校
- ・勝間田小学校
- ・坂部小学校

あわせて1校

- ・相良中学校
- ・相良小学校
- ・菅山小学校
- ・萩間小学校
- ・地頭方小学校

あわせて1校

牧之原市菊川市 学校組合立

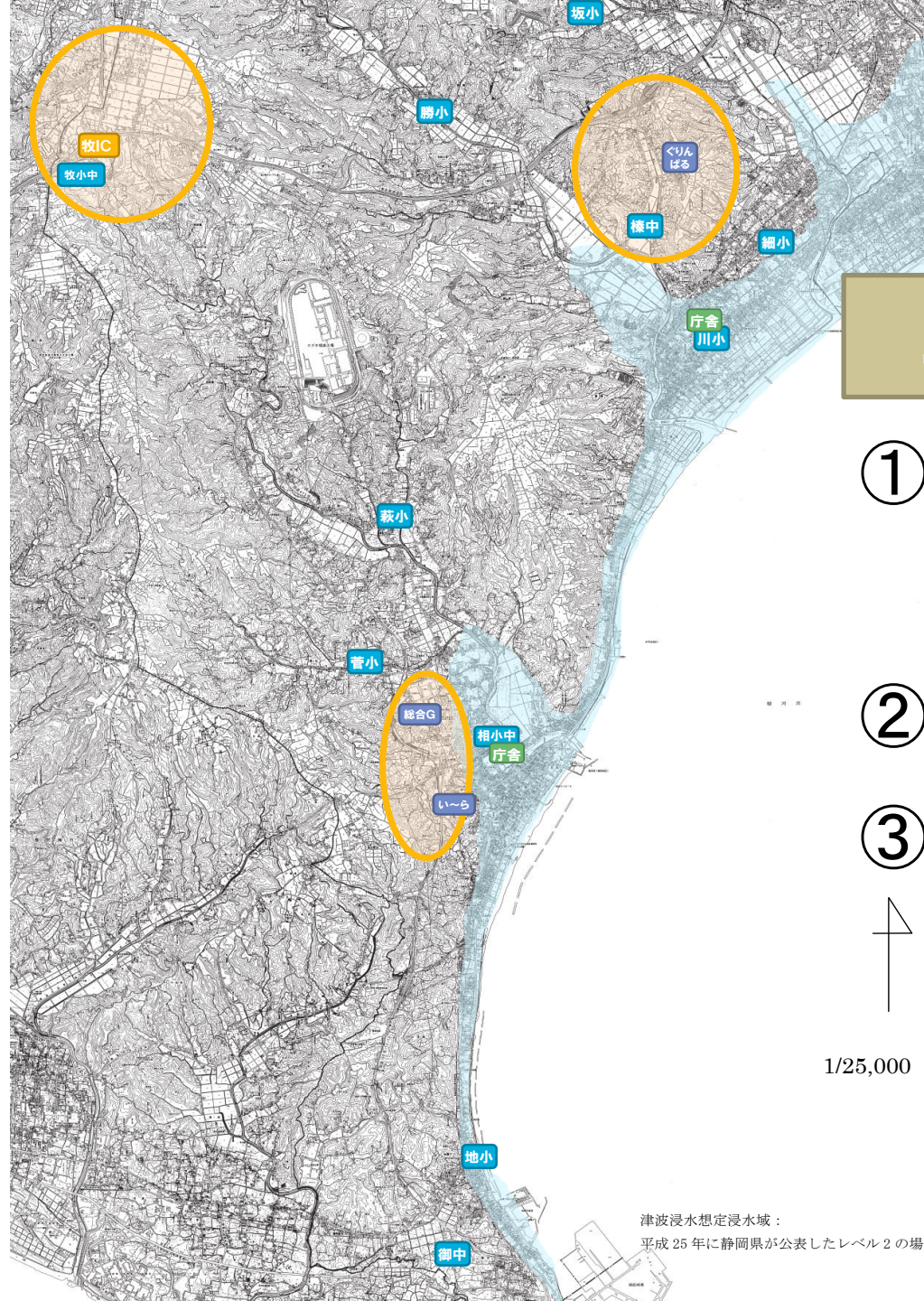
- ・牧之原中学校
- ・牧之原小学校

引き続き検討

再編後

学校の場所の条件

- 津波浸水想定区域外（その他災害にも大丈夫）
- 徒歩又は自転車で行くことができる子どもが多い
- スクールバス等の輸送能力
- 校舎、体育館、運動場、駐車場が確保できる広さがある
- 道路状況（広さ等）も考慮する



学校の場所の候補

①い～らから

相良総合グラウンド周辺

②榛原中学校周辺

③牧之原小・中学校周辺



1/25,000

津波浸水想定浸水域：
平成25年に静岡県が公表したレベル2の場合

通学方法

- 徒歩、自転車、スクールバス等で通学
- 通学方法については、学年や距離により、
子どもが安全に通学できる方法とする
(高低差も考慮する)

2030年までに開校する場合のスケジュール案

年 月 項 目	2021			2022			2023			2024			2025			2026			2027			2028			2029			2030													
	R 3			R 4			R 5			R 6			R 7			R 8			R 9			R 1 0			R 1 1			R 1 2													
	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3	4～7	8～11	12～3											
計画・ 構想	●再編計画策定	周知																																							
		学校基本構想 2校・校区での検討																																							
校舎 建設							基本設計・実施設計						(用地取得) ・造成等						建設工事						●開校目標年																
開校 準備																校区における開校に 向けての各種検討																									

An aerial photograph showing a coastal town with a dense cluster of buildings and a large, terraced tea plantation in the foreground. The tea fields are arranged in neat, parallel rows, creating a vibrant green pattern. A dirt road winds through the fields, and a paved road runs along the right side. In the background, the town meets the sea under a clear blue sky.

ご清聴ありがとうございました

**子どもたちの未来と
20年後の牧之原市を見据えて…**